

平成 30 年度

人間生活学総合研究科教授内容

臨床心理学専攻

東京家政大学大学院

30 シラバス 臨床心理学専攻

(5) 臨床心理学専攻(修士課程)

区分	授 業 科 目	単位数	臨床心理士 必選別	公認心理師必選別 及び科目分野	担 当 教 員	備考(シラバスページ)
臨床心理学基礎分野	臨床心理学特論	4	必		教授 福 井 至	高専 P1
	臨床心理学面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	必	選⑦	准教授 岡 島 義	高専 P3
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2	必		教授 相 馬 誠 一	高専 P5
	臨床心理学査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	必	選⑥	准教授 岡 島 義	高専 P6
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	必		講 師 平 野 真 理	高専 P7
	臨床心理基礎実習	(2)	必		教授 三 浦 正 江 講 師 五 十 嵐 友 里	高専 P8
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	(1)	必	必⑩	教授 福 井 至 教授 三 浦 正 江 准教授 岡 島 義 講 師 平 野 真 理 講 師 五 十 嵐 友 里	高専 P10
	臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	(1)	必		教授 相 馬 誠 一 教授 福 井 至 教授 三 浦 正 江 准教授 岡 島 義 講 師 平 野 真 理 講 師 五 十 嵐 友 里	高専 P13
臨床心理学専門分野	臨床心理統計法特論	4	選 (A群科目)		教授 井 上 俊 哉	高専 P18
	臨床心理学研究法特論	2	選 (A群科目)		客員教授 西 村 純 一	高専 P20
	人格心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 嶋 田 洋 徳	高専 P21
	認知心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任) 高 橋 秀 明	高専 P22
	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (C群科目)	選④	講師(兼任) 阿 部 恵 一 郎	高専 P23
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	2	選 (C群科目)	選⑧	客員教授 大 熊 保 彦	高専 P24
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任) 坂 本 博 子	高専 P25
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	客員教授 近 喰 ふ じ 子	高専 P26
	障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	選②	客員教授 近 喰 ふ じ 子	高専 P27
	グループ・アプローチ特論	2	選 (E群科目)		講師(兼任) バーンズ 亀山 静子	高専 P28
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2		選③	講師(兼任) バーンズ 亀山 静子	高専 P29
	発達臨床心理学特論	2	選 (E群科目)		講 師 平 野 真 理	高専 P30
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2		選⑤	客員教授 西 村 純 一	高専 P31
	生徒指導・教育相談・キャリア教育 (心の健康教育に関する理論と実践)	2		選⑨	教授 相 馬 誠 一 教授 三 浦 正 江	高専 P32
研究指導	特 別 研 究	4	必		教授 福井 至 井上 俊哉 相馬 誠一 三浦 正江 講 師 平野 真理	P33

※臨床心理学専門分野では、必修8科目の他、A群科目からE群科目の5群それぞれ1科目2単位以上を必ず履修する。

※公認心理師については、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。①はいずれか1科目必修

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

授業科目名：臨床心理学特論	単位数：4単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：福井 至
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本講義は臨床心理士受験資格を得るための必修科目となっている臨床心理学基礎分野の5科目のうちの1科目であり、臨床心理学に関する知見を深めるための科目である。そのため、臨床心理学に関する種々の理論と技法についてその共通点と差異について総合的に理解することにより、援助方法を習得するために必要な専門的知識を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では新たに提唱されつつあるものも含めて、臨床心理学に関する種々の理論と技法について学ぶ。また、各々の理論・技法間の関係を構造的に考察する機会とする。前期の1回～15回は、各種心理療法について、その開発過程や人間観、および病理論などについて理解し、その治療法の実際をビデオで確認し、ディスカッションしていく。また後期の16回～30回は、医療保険が適用されている、うつ病の認知行動療法と、不安障害の認知行動療法について学習していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 エビデンスに基づく心理療法、クライエント・センタード療法</p> <p>第2回 エンカウンターグループ</p> <p>第3回 フォーカシング</p> <p>第4回 エモーション・フォーカスト・セラピー</p> <p>第5回 精神分析療法 フロイトとユング</p> <p>第6回 精神分析療法の精神病論 短期力動精神療法</p> <p>第7回 精神分析療法の発展 フロイト以降の精神病論 統合失調症の精神分析療法</p> <p>第8回 行動療法 系統的脱感作法、エクスポージャー法、</p> <p>第9回 行動療法 アサーショントレーニング、SST、</p> <p>第10回 行動療法 弁証法的行動療法 パーソナリティ障害について</p> <p>第11回 行動療法 弁証法的行動療法の実際、スキーマ療法</p> <p>第12回 PTSDとEMDR</p> <p>第13回 家族療法</p> <p>第14回 認知行動療法概説と夏休みの宿題</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 認知行動療法とは 自動思考とスキーマ</p> <p>第17回 認知行動療法とは 行動と認知それぞれへのアプローチ法(自律訓練法、漸進的筋弛緩法、呼吸法)</p> <p>第18回 認知行動療法とは ケースフォーミュレーション</p> <p>第19回 思考パターンを変えてみよう 推論の誤りに気づく</p> <p>第20回 思考パターンを変えてみよう DACS, DAMS</p> <p>第21回 思考パターンを変えてみよう 否定的自動思考カード</p> <p>第22回 行動を変えてみよう 活動記録表</p> <p>第23回 行動を変えてみよう 不安階層表(系統的脱感作法とエクスポージャー法)</p>			

- 第24回 考え方のクセを見直そう スキーマ JIBT-R
第25回 考え方のクセを見直そう 不合理な信念カード
第26回 症状に合わせて行うその他の認知行動療法 EMDR
第27回 症状に合わせて行うその他の認知行動療法 パニック症治療のための認知行動療法
第28回 症状に合わせて行うその他の認知行動療法 社交不安障害治療のための認知行動療法
第29回 症状に合わせて行うその他の認知行動療法 強迫性障害治療のための認知行動療法
第30回 まとめ

準備学習：1回～15回に関しては、学生が発表し、それについてディスカッションする。ディスカッションするためには、発表者以外の者も概要について理解しておくこと。

16回～30回に関しては、「福井至・貝谷久宣監修 図解やさしくわかる認知行動療法 ナツメ社」が数日あれば通読できるので、通読しておくこと。

テキスト：福井至・貝谷久宣監修 図解やさしくわかる認知行動療法 ナツメ社

参考書・参考資料等

福井至編著 認知行動療法ステップアップ・ガイド 金剛出版

学生に対する評価

単位修得のためには、最低1回は発表し、5種類のレポートを提出することが必要である。また、前期と後期それぞれでテストを実施する。評価は、発表10%、ディスカッションへの参加度10%、レポート25%、テスト55%で評価する。

授業科目名： 臨床心理学面接特論I（心理支援に関する理論と実践）	単位数： 2単位	必修 （高専(公民)）	担当教員名： 岡島 義
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力動論および行動論・認知論に基づく心理療法，その他の心理療法の理論と方法を理解すること。 2. 上記の理論と方法をどのように心理支援につなげるかを理解すること 3. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援を選択する方法を理解すること。 			
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理面接では精神分析理論，自己理論，認知・行動理論など，心理療法ごとの理論に基づいた支援が行われている。本講義では，各心理療法の理論と方法，およびその実践内容を理解するとともに，目の前のクライアントに応じた支援方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス 臨床心理学の歴史的な流れ</p> <p>第2回： 心理療法を行う上での重要なスキルを知る</p> <p>第3回： 重要なスキルを用いたロールプレイの実施</p> <p>第4回： ロールプレイのフィードバック</p> <p>第5回： 力動論に基づく心理療法の理論</p> <p>第6回： 力動論に基づく心理療法：方法と実践</p> <p>第7回： 事例検討①：力動論に基づく症例理解</p> <p>第8回： 認知行動理論に基づく心理療法の理論</p> <p>第9回： 認知行動理論に基づく心理療法：方法と実践</p> <p>第10回： 事例検討②：認知行動理論に基づく症例理解</p> <p>第11回： 認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ①：セルフモニタリング</p> <p>第12回： 認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ②：エクスポージャー</p> <p>第13回： 認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ③：認知再構成法</p> <p>第14回： 面接の流れの中で，専門知識・技術をどのように活用するかを学ぶ</p> <p>第15回： まとめと振り返り</p>			
<p>準備学習：</p> <p>予習1時間，復習1時間</p> <p>参考図書を読んで，授業で扱ったところの詳細を理解すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			

30 シラバス 臨床心理学専攻

参考書・参考資料等：

藤山直樹（著）「集中講義・精神分析 上・下」（岩崎学術出版）

坂野雄二・岡島 義（監訳）「認知行動療法という革命：創始者たちが語る歴史」（日本評論社）

坂野雄二・鈴木伸一・神村栄一（著）「実践家のための認知行動療法テクニックガイド：行動変容と認知変容のためのキーポイント」（北大路出版）

学生に対する評価：

平常点30%，授業中に出す課題に対する小レポートの内容30%，レポート課題の内容40%

授業科目名： 臨床心理学面接特論Ⅱ	単位数：2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：相馬誠一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>力動論に基づく心理療法の理論と方法などの臨床心理学の基礎的・基本的な内容を学ぶ。その上で、力動論やその他の心理療法の理論を理解し、カウンセリングの実践力を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>力動論に基づく心理療法の理論と方法などを中心に学んでいく。具体的には、力動論の技法や描画療法、箱庭療法などを実践的に学ぶことにより、基本的な内容を理解し基礎的なカウンセリングの実践力を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・ロールプレイ#1 かかわり技法を中心に</p> <p>第2回：スーパーヴィジョン#1 かかわり技法を中心に(フィードバック)</p> <p>第3回：ロールプレイ#2 質問技法を中心に</p> <p>第4回：スーパーヴィジョン#2 質問技法を中心に(フィードバック)</p> <p>第5回：ロールプレイ#3 反射技法を中心に</p> <p>第6回：スーパーヴィジョン#3 反射技法を中心に(フィードバック)</p> <p>第7回：ロールプレイ#4 反映技法を中心に</p> <p>第8回：スーパーヴィジョン#4 反映技法を中心に(フィードバック)</p> <p>第9回：ロールプレイ#5 スクイグル法を取り入れて</p> <p>第10回：スーパーヴィジョン#5 スクイグル法を取り入れて(フィードバック)</p> <p>第11回：ロールプレイ#6 箱庭療法を取り入れて</p> <p>第12回：スーパーヴィジョン#6 箱庭療法を取り入れて(フィードバック)</p> <p>第13回：ロールプレイ#7 総合的な技法を取り入れて</p> <p>第14回：スーパーヴィジョン#7 総合的な技法を取り入れて(フィードバック)</p> <p>第15回：まとめ レポート提出</p>			
<p>準備学習：予習・発表資料作成1時間。復習1時間。</p> <p>カウンセリングのロールプレイのテープをまとめ発表資料の作成をすること。</p> <p>積極的な学習態度を望む。</p>			
<p>テキスト：プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度指示</p>			
<p>学生に対する評価：予習も含めて授業でのプレゼン30%、課題に対する小レポートと技法修得40%、レポート提出30%。学習態度、発表、レポート等の総合評価。</p>			

授業科目名： 臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と実践)	単位数： 2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名： 岡島 義
授業の到達目標及びテーマ (1) 臨床心理士および公認心理師の実践における心理的アセスメントの実践の意義、倫理、アカウンタビリティ(説明責任)について理解すること (2) 心理アセスメントに関する理論と方法について理解すること (3) 上記の理論と方法をどのように心理支援につなげるかを理解すること			
授業の概要 臨床場面では、クライアントを多面的に理解することで、適切な支援を提供することができる。本講義では、心理アセスメントの意義、倫理、アカウンタビリティを理解した上で、各心理検査の理論と方法、およびその実践方法を知るとともに、ケースフォーミュレーションの理論と方法について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス：心理的アセスメントの意義、倫理、アカウンタビリティ 第2回：知能検査の実施方法を学ぶ①：WAIS-IIIを用いたロールプレイ(前半) 第3回：知能検査の実施方法を学ぶ②：WAIS-IIIを用いたロールプレイ(後半) 第4回：知能検査の実施方法を学ぶ③：分析と解釈 第5回：知能検査の実施方法を学ぶ④：分析と解釈 第6回：投影法検査を学ぶ①：風景構成法を用いたロールプレイ 第7回：投影法検査を学ぶ②：風景構成法の理論と解釈 第8回：質問紙検査を学ぶ①：全体的な特徴をとらえる検査(TEG-II, CMI, STAIなど) 第9回：質問紙検査を学ぶ②：症状とその関連要因を把握する検査(BDI-II, ATQ-R, FABなど) 第10回：構造化面接を学ぶ：MINI 第11回：ケースフォーミュレーション①：生物心理社会(bio-psycho-social)モデルに基づく情報収集 第12回：ケースフォーミュレーション②：ロールプレイ 第13回：ケースの概念化③：フィードバック 第14回：模擬症例から見るケースフォーミュレーションと心理的支援 第15回：まとめと振り返り			
準備学習： 予習1時間、復習1時間 参考図書を読んで、授業で扱ったところの詳細を理解すること。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 松原達哉(編)「臨床心理アセスメント」丸善出版 竹内健児(編)「事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方」(金剛出版)			
学生に対する評価： 平常点30%、授業中に出す課題に対する小レポートの内容30%、レポート課題の内容40%			

授業科目名：臨床心理査定演習Ⅱ	単位数：2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：平野真理
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本演習では、ロールシャッハ検査を中心とした投影法アセスメントについて、検査の理論の理解、実施、スコアリング、解釈を行うスキルを身につけることを到達目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理士にとっての心理査定は、人間理解の一つの方法として非常に重要なものである。本演習では投影法を取り上げる。単なる知識の修得ではなく、クライアントを総合的に理解・把握するための実践的なスキルを修得することに力点を置いていきたい。</p> <p>ロールシャッハ検査について複数名に対する検査実施を行い、検査の実施、スコアリング、解釈のスキルを習得する。</p> <p>本授業を通して臨床心理士として必要な投影法を用いたアセスメントの理論と実践能力を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（準備するもの、心理アセスメントについてなど）</p> <p>第2回：実施法の説明・プレ実施</p> <p>第3回：新・心理診断法；第3章 実施法／第4章 分類</p> <p>第4回：新・心理診断法；第5章 反応領域</p> <p>第5回：新・心理診断法；第6章 反応決定因</p> <p>第6回：新・心理診断法；第7章 反応内容／第8章 形態水準</p> <p>第7回：スコアリングのトレーニング</p> <p>第8回：新・心理診断法；第11章 反応数等／第12章 反応領域</p> <p>第9回：新・心理診断法；第13章 反応決定因</p> <p>第10回：新・心理診断法；第14章 反応内容／第15章 形態水準</p> <p>第11回：新・心理診断法；第16章 総合的解釈</p> <p>第12回：報告書のまとめ方</p> <p>第13回：臨床事例からみる効用</p> <p>第14回：ロールシャッハテストの実施</p> <p>第15回：最終報告書の作成</p>			
<p>準備学習：</p> <p>演習内容について担当者を決め、発表する。担当者でない者も、あらかじめテキストや参考書を読んで理解に努め、疑問点を明らかにしておくこと。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>新・心理診断法 片口安史，金子書房</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>具体的な指示は授業で行う。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>発表、質疑応答などの授業態度とレポート等の提出物によって総合的に評価する。</p>			

授業科目名：臨床心理基礎実習	単位数： (2) 単位	必修 (高専 (公民))	担当教員名： 三浦正江・五十嵐友里 オムニバス
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>2年次の臨床心理実習に向けて、心理アセスメント、心理療法、地域援助等における基本的な知識の習得および基本的なスキルの修得を目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本実習は、臨床心理実習I、IIにむけて、心理アセスメント、心理療法、地域援助等における基本的な知識およびカウンセリングの習得を目的とする（オムニバス方式／全30回）。</p> <p>（五十嵐友里／1～14回）基礎的な臨床心理実習に関する知識とスキルについて学習する。</p> <p>（三浦正江／15回～30回）精神疾患等を抱えたクライアントを想定した5回程度の継続したロールプレイおよび模擬カンファレンスを通して、クライアントの問題におけるアセスメントや心理療法の実施について具体的に学習する。後半は、実際に大学附属臨床相談センターで窓口や電話での受付実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 自己紹介</p> <p>第2回：心理臨床家の現況とアイデンティティ</p> <p>第3回：心理臨床家の倫理</p> <p>第4回：いろいろな援助施設における心理臨床</p> <p>第5回：心理療法の準備</p> <p>第6回：心理療法の基本ルール</p> <p>第7回：面接状況の設定</p> <p>第8回：記録</p> <p>第9回：クライアントの発達段階に応じた心理療法の基本ルール</p> <p>第10回：心理療法の過程で生じる諸問題</p> <p>第11回：心理臨床家と精神医学的知識</p> <p>第12回：心理アセスメント（心理テストの長所と短所）</p> <p>第13回：心理アセスメント（インテーク面接）</p> <p>第14回：心理アセスメント（継続面接）</p> <p>第15回：まとめ レポート</p> <p>第16回：継続面接を想定したロールプレイに関するガイダンス、グループ分け クライアント役の設定（主訴、性別、年齢、家族構成、生育歴、問題の経過、生活状態など）</p> <p>第17回：継続ロールプレイ（インテーク面接）</p> <p>第18回：インテーク面接についてのケース・カンファレンス</p> <p>第19回：継続ロールプレイ（第2回面接）</p> <p>第20回：第2回面接についてのケース・カンファレンス</p> <p>第21回：継続ロールプレイ（第3回面接）</p> <p>第22回：第3回面接についてのケース・カンファレンス</p>			

第23回：継続ロールプレイ（第4回面接）

第24回：第4回面接についてのケース・カンファレンス

第25回：継続ロールプレイ（第5回面接）

第26回：模擬ケース報告会

第27回：大学附属臨床相談センターでの実習に関する全体ガイダンス

第28回：臨床相談センター実習（窓口受付・電話対応：レクチャー、観察学習）

第29回：臨床相談センター実習（窓口受付・電話対応：レクチャー、観察学習、実習）

第30回：全体のまとめ

準備学習：

相馬：テキストを事前に読み、問題意識を持って参加する。予習・発表資料作成1時間。復習1時間。

三浦：後期授業開始前にオリエンテーションを行い、準備学習の内容を含めた詳細についてアナウンスするが、認知行動療法に関する書籍を講読するなど基本的な理論・技法について学習しておくこと。また、ロールプレイ開始後は、各面接の事前準備として1時間半、各ケース・カンファレンス準備時間として2時間半程度が準備学習として必要になる。

テキスト：

鐘幹八郎他編著 「心理臨床家の手引第3版」誠信書房

参考書・参考資料等：

その都度資料提供し参考書を指示。準備教育を演習・実習形式で行う。

学生に対する評価：

予習も含めて授業でのプレゼン30%、課題に対する受け答えなどの平常点40%、レポート提出（三浦の課題ではケース報告会の発表）30%等の総合評価。

授業科目名：臨床心理実習 I (心理実践実習)	単位数： (1) 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：福井至・ 三浦正江・岡島義・平野真理 ・五十嵐友里 複数教員担当
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>臨床心理士、公認心理師としての着実で効果的な心理臨床活動ができるようになることが到達目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理実習 I (心理実践実習)の時間は450時間以上で、担当ケース(心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援等)に関する実習時間は計270時間以上(うち、学外施設における当該実習時間は90時間以上)とすべきことと国から指定されている。さらに、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野のうち3分野以上の施設において実習を実施し、保健医療分野は必須とされている。</p> <p>そのため、本実習では病院実習は、病棟実習として国立国際医療センターもしくは埼玉医科大学川越医療センター、またデイケア実習として東京愛成会高月病院もしくは所沢メンタルクリニックで実習を行う。また、福祉分野としては加賀福祉園で、教育分野としては北区教育委員会で実習を行う。</p>			
<p>本シラバスでは、1単位の实習としての23回分のスーパーヴィジョン分を授業回数としてまず示すが、1回の授業は2時間の授業に相当するため、スーパーヴィジョン数回分に相当する。また、授業回数を示した後で、実際の実習場所での各学生の実習について示す。その際、実習施設ごとに回数を分けて示すが、臨床相談センターの実習と学外施設での実習は、学生により曜日が異なるものの、並行して実施する。また、本実習は2年次前期の科目であるが、実際には1年次後期から実習は開始される。これは、公認心理師法で、450時間以上の実習が必要で、そのうち270時間以上は担当ケースの実習(学外施設で最低90時間以上)が必要なためである。</p>			
<p>第1回 オリエンテーション、臨床心理実習ノート配布、実習先決定。</p> <p>第2回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導1</p> <p>第3回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導2</p> <p>第4回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導3</p> <p>第5回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導4</p> <p>第6回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン1</p> <p>第7回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン2</p> <p>第8回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン3</p> <p>第9回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン4</p> <p>第10回 教育委員会での実習のスーパーヴィジョン1</p> <p>第11回 教育委員会での実習のスーパーヴィジョン2</p> <p>第12回 教育委員会での担当ケースのスーパーヴィジョン1</p> <p>第13回 教育委員会での担当ケースのスーパーヴィジョン2</p> <p>第14回 病棟実習のスーパーヴィジョン1</p>			

- 第15回 病棟実習のスーパーヴィジョン2
 第16回 病棟実習の担当ケースのスーパーヴィジョン1
 第17回 病棟実習の担当ケースのスーパーヴィジョン2
 第18回 デイケア実習のスーパーヴィジョン1
 第19回 デイケア実習のスーパーヴィジョン2
 第20回 デイケア実習の担当ケースのスーパーヴィジョン1
 第21回 デイケア実習の担当ケースのスーパーヴィジョン2
 第22回 福祉施設での実習のスーパーヴィジョン
 第23回 前期までの実習報告会

実習施設での実習

実習第1回 オリエンテーション、臨床心理実習ノート配布、実習先決定 (2時間)

実習第2回 臨床相談センターでの電話インテークの指導およびロールプレイ (6時間)

実習第3回～実習第54回 1回当たり、臨床相談センターでの電話インテーク (9:00～13:00もしくは13:00～17:00) (4時間) 10月から翌年11月まで14か月間(52週) 毎週1回で合計208時間

実習第55回～実習第98回 臨床相談センターでの陪席を含む担当ケースの実習 11月～11月まで12か月間(48週) 毎週1回2ケース1時間ずつ2時間の実習、合計144時間

実習第99回～実習第104回 病院病棟実習として、国立国際医療研究センター病院5名と埼玉医科大学総合医療センター5名で、週1回で9:00～17:00の8時間で6回の合計80時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの6時間の合計54時間

実習第105回～実習第108回 担当ケースを決めた病院病棟実習として、国立国際医療研究センター病院5名と埼玉医科大学総合医療センター5名で、週1回で9:00～17:00の8時間で4回の合計32時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの4時間の合計36時間

実習第109回～実習第114回 病院実習として東京愛成会高月病院5名もしくは所沢メンタルクリニック5名、週1回で9:00～17:00の8時間で6回の合計48時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの6時間の合計54時間

実習第115回～実習第120回 病院実習として東京愛成会高月病院5名もしくは所沢メンタルクリニック5名、週1回で9:00～17:00の8時間で4回の合計32時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの4時間の合計36時間

実習第121回～実習第132回 教育分野の実習として東京都北区教育委員会、修士1年の9月から修士1年の3月までのうち、週1回5名以内で9:00～17:00の8時間で3か月間(12週) の合計96時間

実習第133回 福祉分野の実習として加賀福祉園、1回10名9:00～17:00までの8時間の見学実習

準備学習：毎回、実習での目的や課題を明確にしておくこと。各回の実習終了時には、その目的が達成されたか、課題として残っている点は何かについて確認する。

テキスト：

配布した臨床心理実習ノート

参考書・参考資料等：

実習ノート作成のために、各自図書館等で、必要な文献を参照すること。

学生に対する評価：

学内実習への参加態度（20点）、学外実習への参加態度（20点）、実習ノートの評価（20点）
スーパーヴィジョンへの参加態度(20点)、実習ノートの提出状況（20点）等について総合的に
評価する。

授業科目名：臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	単位数： (1) 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：相馬誠一・ 福井至・三浦正江・岡島義・ 平野真理・五十嵐友里 複数教員担当
授業の到達目標及びテーマ 臨床心理士としての着実で効果的な心理臨床活動ができるようになることが到達目標である。			
授業の概要 臨床心理実習Ⅱでは、個人スーパーヴィジョンと集団スーパーヴィジョン、およびケースカンファレンスを含む実習を行う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 電話インテークの実習ノートの振り返り1 第3回 電話インテークの実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第4回 電話インテークのスーパーヴィジョン2 第5回 教育委員会関連実習の実習ノートの振り返り1 第6回 教育委員会関連実習の実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第7回 教育委員会関連実習での担当ケースのケースカンファレンス 第8回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り1 第9回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第10回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り1 第11回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第12回 臨床相談センターでの担当ケースのケースカンファレンス 第13回 精神科病棟実習での実習ノートの振り返り1 第14回 精神科病棟実習での実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第15回 精神科病棟実習での担当ケースのケースカンファレンス 第16回 精神科デイケア実習での実習ノートの振り返り1 第17回 精神科デイケア実習での実習ノートの振り返り2とスーパーヴィジョン1 第18回 精神科デイケア実習での担当ケースのケースカンファレンス 第19回 福祉関連施設実習での実習ノートの振り返りとスーパーヴィジョン 第20回 担当ケースのケースカンファレンス1 第21回 担当ケースのケースカンファレンス2 第22回 担当ケースのケースカンファレンス3 第23回 実習報告会			
準備学習：毎回、実習での目的や課題を明確にしておくこと。各回の実習終了時には、その目的が達成されたか、課題として残っている点は何かについて確認する。			
テキスト：配布した臨床心理実習ノート			

参考書・参考資料等：

実習ノート作成やケースカンファレンスの発表などのため、各自図書館等で、必要な文献を参照すること。

学生に対する評価：

実習ノートの評価（20点）、担当ケースの評価（20点）、スーパーヴィジョンへの参加態度（20点）、ケース・カンファレンスの発表および参加態度（20点）、実習ノートの提出状況（20点）等について総合的に評価する。

授業科目名：臨床心理実習 (28年度、29年度入学者)	単位数： (2) 単位	必修 (高専 (公民))	担当教員名：相馬誠一・福井至・三浦正江・岡島義・平野真理・五十嵐友里 複数教員担当
授業の到達目標及びテーマ 臨床心理士としての着実に効果的な心理臨床活動ができるための基礎的な力を修得することが到達目標である。具体的には、心理臨床事例にかかわる体験を通して、臨床心理査定や臨床心理面接に関するスキルや臨床心理士としての職業倫理感を養う。			
授業の概要 本実習では、受理面接、臨床心理査定、臨床心理面接、ケース・スーパーヴィジョン、ケース・カンファレンスを行う。本実習は、本学附属臨床相談センターにおける学内実習と提携外部機関での学外実習から構成されている。学内実習では、外来クライアントを対象とした実習を行い、面接終了後のスーパーヴィジョン、実習日誌への記録、原則週1回のケース・カンファレンス等を通じた学習を行う。学外実習では、複数の外部機関で、多様な患者と接することによって、学内実習では経験できない臨床活動を行い、学内実習を補完している。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、臨床心理実習ノート配布、実習先決定(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第2回：学内実習打ち合わせ 院生一人あたりの学内実習は、カウンセリングの陪席から始め、徐々に軽症者事例の実際の担当に進む。院生は軽症事例のカウンセリング後に毎回担当教員によるスーパーバイズを受ける。また、毎週のカンファレンスに参加し、ケース検討会での事例発表および討論にも参加する。さらに、ケースを紹介してくださった学外の先生をおよびしての紹介カンファレンスでの事例発表および討論にも参加する。後期の最後には、学生によって事例研究論文を執筆させ、「臨床相談研究」に掲載する。(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第3回：実習先機関提携病院への挨拶と実習打ち合わせ。院生一人あたりの学外実習は、半期はデイケア実習(週1日10時～5時程度で10回以上)であり、半期は精神科病棟実習(週1日10時～5時程度で10回以上)となっている。前期と後期のどちらになるかは実習生により異なる。(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第4回：数回のカウンセリング陪席と、担当教員による実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第5回：軽症者事例のカウンセリング1と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第6回：軽症者事例のカウンセリング1と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第7回：学外実習2と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐) 第8回：軽症者事例のカウンセリング2と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導			

- (相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第9回：学外実習3と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第10回：軽症者事例のカウンセリング3と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第11回：学外実習4と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第12回：ケース検討会1 (相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第13回：学外実習5と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第14回：軽症者事例のカウンセリング4と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第15回：学外実習6と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第16回：軽症者事例のカウンセリング5と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第17回：学外実習7と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第18回：ケース検討会2 (相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第19回：学外実習8と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第20回：学外実習9と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第21回：学外実習10と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第22回：前期臨床心理実習報告会(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第23回：後期臨床心理実習オリエンテーション(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第24回：実習先機関提携病院への挨拶と実習打ち合わせ。(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第25回：学外実習1と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第26回：軽症者事例のカウンセリング6と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第27回：学外実習12と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第28回：軽症者事例のカウンセリング7と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)
- 第29回：学外実習13と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第30回：軽症者事例のカウンセリング8と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導
(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第31回：学外実習14と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第32回：ケース検討会3(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第33回：学外実習15と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第34回：軽症者事例のカウンセリング9と、担当教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導
(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第35回：学外実習16と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第36回：軽症者事例のカウンセリング10と、教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第37回：学外実習17と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第38回：軽症者事例のカウンセリング11と、教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第39回：紹介カンファランス(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第40回：学外実習18と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第41回：軽症者事例のカウンセリング12と、教員によるスーパーバイズ、実習記録の確認・指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第42回：学外実習19と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第43回：ケース検討会4(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第44回：学外実習20と、担当教員による学外臨床心理実習記録の確認および指導事例研究論文指導3
(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

第45回：臨床心理実習最終報告会(相馬・福井・三浦・岡島・平野・五十嵐)

準備学習：

毎回、実習での目的や課題を明確にしておくこと。各回の実習終了時には、その目的が達成されたか、課題として残っている点は何かについて確認する。

テキスト：

配布した臨床心理実習ノート

参考書・参考資料等：

特になし。

学生に対する評価：学内実習への参加態度(25点)、学外実習への参加態度(25点)、ケース・カンファレンスの発表および参加態度(25点)、実習ノートの提出状況(25点)等について総合的に評価する。

授業科目名：臨床心理統計法特論 (A群科目)	単位数：4単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：井上俊哉
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>心理学研究を行って新たな知見を得るためには、研究の目的に合致したデータを集め、それらのデータを適切に処理し、結果を解釈する過程が欠かせない。この過程において重要な役割を果たすのが、統計学である。自分自身で研究を行うときはもちろんのこと、他者の研究を正しく理解し、批判的に吟味するためにも、統計学の知識は必須である。本特論では、応用場面を意識しつつ、統計学の正しい適用と解釈について理解を深めていく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理学の研究論文を読み進めながら、代表的な統計解析法への理解を深めていく。教員側からの一方通行の講義形式はとらず、受講者からの積極的な発言を求める。統計学を十分に理解し自在に応用できるようになるために、予習・復習を怠らず、自ら学ぶ気持ちを持って授業に臨んでほしい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：リサーチクエスチョンと統計学</p> <p>第2回：実験計画と分散分析（研究論文を読む1）</p> <p>第3回：実験計画と分散分析（研究論文を読む2）</p> <p>第4回：実験計画と分散分析（完全無作為1要因デザイン）</p> <p>第5回：実験計画と分散分析（完全無作為2要因デザイン）</p> <p>第6回：実験計画と分散分析（交互作用，事後検定）</p> <p>第7回：実験計画と分散分析（対応のある1要因デザイン）</p> <p>第8回：実験計画と分散分析（共分散分析）</p> <p>第9回：比率の差の分析</p> <p>第10回：カテゴリー変数間の連関の分析</p> <p>第11回：量的変数間の相関の分析</p> <p>第12回：効果量とその信頼区間</p> <p>第13回：メタ分析</p> <p>第14回：検定力とその利用</p> <p>第15回：前期のまとめ</p> <p>第16回：重回帰分析（線形モデル）</p> <p>第17回：重回帰分析（分散説明率）</p> <p>第18回：重回帰分析（偏回帰係数）</p> <p>第19回：パス解析</p> <p>第20回：構造方程式モデリング（計算原理）</p> <p>第21回：構造方程式モデリング（AMOSを使う）</p> <p>第22回：構造方程式モデリング（モデルの比較）</p> <p>第23回：確認的因子分析</p> <p>第24回：探索的因子分析</p>			

第25回：主成分分析

第26回：研究論文を読む1

第27回：研究論文を読む2

第28回：研究論文を読む3

第29回：研究論文を読む4

第30回：1年間のまとめ

準備学習：毎回の授業の学修内容について、次回の授業までに要点をまとめて提出する。

テキスト：

南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣

足立浩平「多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門」ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等：

南風原朝和「量的研究法」東京大学出版会

学生に対する評価：全回数の2/3以上の出席が必須。授業内の発言（50%）、レポート（50%）によって評価する。積極的な参加を高く評価する。

授業科目名： 臨床心理学研究法特論(A群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：西村純一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>① 自分の研究テーマに関連する臨床心理学の研究論文を方法論の観点から批判的に読むこと。</p> <p>② 臨床心理学の研究の研究計画と実施計画を立てること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理学の基礎的研究法である実験法、観察法、面接法、質問紙法、フィールドワーク、事例研究法などについて、その実際的なやり方、その方法のバリエーション、その方法によって収集したデータの解析方法、そしてその方法の実施上の限界などについてコースワークの授業として学ぶ。また、学会誌や紀要に掲載された研究論文の紹介やその質疑を通じて、自分の研究計画や実施計画の作成に際しての留意点についてリサーチワークの基礎を学ぶ。その集大成として、各自、自分の修士論文計画書を提出する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：研究法の基礎</p> <p>第3回：データと統計処理</p> <p>第4回：実験法 I</p> <p>第5回：実験法 II</p> <p>第6回：観察法・フィールドワーク</p> <p>第7回：面接法</p> <p>第8回：質問紙法 I</p> <p>第9回：質問紙法 II</p> <p>第10回：事例研究法</p> <p>第11回：質問研究法 (KJ法とGTA, M-GTA)</p> <p>第12回：研究論文の紹介と研究計画</p> <p>第13回：研究論文の紹介と研究計画</p> <p>第14回：研究論文の紹介と研究計画</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>準備学習：予習としての文献研究1時間、復習としてのノート整理1時間心理学研究法や統計解析に関する基礎的な理解</p>			
<p>テキスト：「これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法」</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>Reserch Methods and Statistics in Psychology (5th Ed)</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>毎回の出席、質疑へのコミット、研究論文の紹介、修士論文の研究計画などを総合的に評価する。 質疑へのコミット0.4、研究論文の紹介0.3、修士論文の研究計画0.3</p>			

授業科目名：人格心理学特論 (B群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：嶋田洋徳
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>心理臨床場面におけるパーソナリティの理解に際し、代表的ないくつかの理論的背景や具体的方法論を述べることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心理臨床場面において、クライアントの訴えを理解し、援助の具体的な方策を考える際に、クライアントのパーソナリティを理解することは不可欠である。本講義では、精神力動的な背景を持つパーソナリティ理論や人間性心理学を基盤にしたパーソナリティ理論との対比を行いながら、学習理論、行動理論、および認知行動理論を背景としたパーソナリティ理論について、典型的な症例を取り上げながら概観する。なお、本講座は、学位授与方針における心理臨床に関する理論と知識の基礎に位置づく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション, 人格心理学の考え方 第2回：精神力動的アプローチの理解 第3回：人間性心理学的アプローチの理解 第4回：行動療法の考え方 第5回：認知療法の考え方 第6回：認知行動療法の考え方 第7回：認知（行動）モデルの考え方 第8回：アセスメントの方法 第9回：治療計画の立案 第10回：治療効果の評価 第11回：エビデンス・ベイストの考え方 第12回：事例研究（1）：児童青年期の事例 第13回：事例研究（2）：成人期の事例 第14回：まとめ, 今後の研究課題 第15回：到達度の確認とその解説</p>			
<p>準備学習 毎授業後には、授業中に別途指示するレポートを提出すること。なお準備学習には、90分程度を要する。</p>			
<p>テキスト 使用しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。 適宜プリントを配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の取り組み、小課題への取り組み、およびレポートの3側面から評価する。平常点(20%) , 小課題 (60%) , レポート (20%) とする。なお、小課題やレポートに対してはフィードバックを行う。</p>			

授業科目名：認知心理学特論 (B群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：高橋秀明
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>認知心理学の研究方法を理解し、日常生活や臨床現場での諸問題へ対処するための知識やスキルを身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>われわれ人間は、日常生活を送る上で、さまざまな認知活動を行っている。認知心理学は、実験的な方法ばかりでなく、調査や観察といった方法によっても、認知活動にアプローチしている。本講では、認知心理学の各領域からいくつかの課題を体験し、日常生活での意味について検討することを通して、認知心理学の研究方法与理論とを身に付けることを目標とする。また、臨床心理学と認知心理学との接点についても議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 認知心理学の基本概念についてのテスト</p> <p>第2回：認知心理学の基本概念についての解説</p> <p>第3回：感覚・知覚・運動研究の実習：反応時間</p> <p>第4回：感覚・知覚・運動研究の実習：生態心理学的体験</p> <p>第5回：記憶研究の実習：文脈効果</p> <p>第6回：記憶研究の実習：処理水準</p> <p>第7回：問題解決研究の実習：課題分析</p> <p>第8回：問題解決研究の実習：機能的固着</p> <p>第9回：問題解決研究の実習：論理的思考</p> <p>第10回：言語、社会、文化研究の実習：集団思考</p> <p>第11回：言語、社会、文化研究の実習：人工物の使いやすさ</p> <p>第12回：臨床心理学と認知心理学との接点について文献検討（1）</p> <p>第13回：臨床心理学と認知心理学との接点について文献検討（2）</p> <p>第14回：自己概念について文献検討</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>準備学習：実習の回では、授業後に、実習に関連した課題レポートを提出する。</p> <p>文献検討の回では、文献を読み込み、プレゼンテーションを行うための準備を必要とする。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし 授業でプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の中で紹介する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業中の討議への参加などの平常点40点、文献紹介20点、課題に対するレポート提出40点。</p>			

授業科目名：社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) (C群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：阿部恵一郎
授業の到達目標及びテーマ 社会病理現象は教育、福祉、心理の領域にわたる今日の問題を扱っている。司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師として実践していく力をつけるため、様々な領域の基礎的及び実践的知識を修得する。			
授業の概要 社会病理は人間が生きていく過程で現れる社会的異常について研究する分野であり、個人と集団の病理から地域社会や社会性体の病理まで含まれる。「昔はこんなことはなかった」ような問題も巷にあふれている。ニート・学級崩壊なども最近の現象かもしれない。この講義では、司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践を考え、非行・犯罪・自殺・児童虐待、学校での特別支援(軽度発達障害)など現代社会にみられる社会病理現象を歴史的にそしてメンタルヘルスや精神医学の視点からみていく。そうすることで、心理的な問題を抱えた人に対して、より有効な援助ができるようになることをめざす。			
授業計画 第1回：社会病理現象とは何か 司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師の実践 第2回：学校・教育領域 ① いじめ 第3回：学校・教育領域 ② 非行 第4回：学校・教育領域 ③ 特別支援教育と軽度発達障害 第5回：家庭・家族領域 ① 児童虐待 第6回：家庭・家族領域 ② 結婚と離婚(晩婚・非婚) 第7回：家庭・家族領域 ③ 少子化 第8回：精神障害・心の問題 ① うつ病の増加 第9回：精神障害・心の問題 ② メンタルヘルス 第10回：精神障害・心の問題 ③ 自殺 第11回：非行・犯罪領域 ① 精神障害と非行、犯罪 第12回：非行・犯罪領域 ② 人格障害 第13回：非行・犯罪領域 ③ 触法精神障害者等医療観察法 第14回：まとめ 第15回：まとめ			
準備学習 小課題のために予習・復習に各1時間必要			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 プリント配布			
学生に対する評価 平常点 50% 小課題 50%			

授業科目名：家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) (C群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：大熊保彦
授業の到達目標及びテーマ 家族心理学のパラダイムを学修し、家族や家族メンバー間の行動・相互作用を理解することができる。また、それを基礎にして初歩的な家族面接を実施できるようになる。			
授業の概要 家族心理学は比較的新しい学問領域なので、「システム」などに代表されるこの領域の専門用語は心理学において必ずしも一般的ではない。授業は家族心理学に関する主たる概念を学習するとともに、家族心理学の基本的なパラダイムを理解する。また、家族心理学は臨床的必要性に応じて成立し理論化されてきたという歴史的経緯があることから、家族療法の技法やその特徴についても言及する。特に従来心理療法との異同、それへの影響や最近の動向についても学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：システム論 第3回：家族とは何か 第4回：家族心理学の基礎概念 第5回：家族構造 第6回：家族コミュニケーション 第7回：多世代家族 第8回：家族の発達—家族の形成 第9回：家族の発達—子どもの児童期まで 第10回：家族の発達—子どもの自立まで 第11回：家族の発達—夫婦の再出発 第12回：家族とは社会—多様な家族 第13回：家族への心理的援助 第14回：最近の家族臨床的アプローチ 第15回：補遺まとめ			
準備学習：講義内容について担当者を決めておき、pptを用いて発表する。担当者は、テキストの字句を並び替えただけの発表ではなく、広く参考書等を参照して内容を豊かにし、自分の言葉で表現できるように努めること。担当者でない者も、担当者に質問するだけでなく、担当者が発表していない部分を補ったり、自分内里の解釈や考えを付加したりするなど、内容の深化に寄与すること。			
テキスト：授業中に指示する。			
参考書・参考資料等：家族心理学辞典、金子書房			
学生に対する評価：発表と授業への積極性から評価する。			

授業科目名：精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と 支援の展開) (D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：坂本博子
授業の到達目標及びテーマ 保健医療分野における臨床心理士および公認心理師の実践に必要な、精神医学の診断と治療が理解できること。			
授業の概要 保健医療分野における公認心理師の実践に必要な精神医学の概要と、主要な精神疾患における症状・経過・診断・治療等の基本事項を正しく理解して習得する。精神障害をもつ人々の有する困難を知るとともに、適切な支援方法を具体的に考える力を養う。また、医療や心理臨床において精神医学の担う役割を理解し、現代社会におけるメンタルヘルスの課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。			
授業計画 第1回：精神医学とは何か 臨床心理士および公認心理師の実践 第2回：統合失調症 (1) 第3回：統合失調症 (2) 第4回：気分障害 (1) 第5回：気分障害 (2) 第6回：不安障害と強迫性障害 第7回：ストレス関連障害と解離性障害 第8回：身体疾患による精神障害 第9回：発達障害、小児期の心身症と精神疾患 第10回：思春期・青年期の精神障害 第11回：壮年期の精神障害 第12回：老年期の精神障害 第13回：精神科治療 (1) 第14回：精神科治療 (2) 第15回：日本の精神医療の現状			
準備学習： 指定されたテキスト等の該当箇所を事前に十分読み、講義に臨んでください。			
テキスト： 精神医学特論(放送大学教育振興会)			
参考書・参考資料等：			
学生に対する評価： 出席および講義への参加態度、演習レポートにより評価をします。評価割合は、授業参画度20%、レポート30%、平常点50%です。			

授業科目名：心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と 支援の展開) (D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：近喰 ふじ子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>「心身医学」は心身症を発症するプロセス研究と言っても過言ではない。プロセス研究と言っても、発症するに至る経過を研究するというのではなく、経過に至るまでのさまざまな身体におけるメカニズムを解き明かすのが主眼といえる。すなわち、心身症の患者理解を基本とし、その成り立ちや考え方を学び、心身相関の理解へと繋がる事を目的とする。また心身症に対して、臨床心理士および公認心理師として適切な心理臨床が実践できるようになることも目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心身医学は精神医学とは異なる学問である。そのため、身体疾患の医学の知識が当然ながら要求される。しかし、精神疾患の知識の必要性も要求されることを申し述べておく。</p> <p>さて、ここでの講義は講師が学生に与える課題(テーマ)を調べ、講義の中でプレゼンテーションをおこなえるようにし、学生からの質疑応答に答えられることを目的とする。発表形式は紙媒体とは限らず、電子媒体も可能とする。また、学生の疑問からの課題もあり得ることを付加しておく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：心身医学とその歴史の変遷</p> <p>第2回：心身症と神経症との相違(心身症の考え方)</p> <p>第3回：心身症発症のメカニズム</p> <p>第4回：心身症診断の決めるはあるのか？</p> <p>第5回：心身症で使用される各種心理テスト(1)質問紙法</p> <p>第6回：心身症で使用される各種心理テスト(2)投映法</p> <p>第7回：心身症治療技法(1)自律訓練法</p> <p>第8回：心身症治療技法(2)芸術療法</p> <p>第9回：心身症治療技法(3)交流分析法</p> <p>第10回：心身症治療技法(4)家族療法</p> <p>第11回：心身症治療技法(5)認知行動療法</p> <p>第12回：心身医学におけるチーム医療と臨床心理士・公認心理師の役割</p> <p>第13回：症例検討1 摂食障害</p> <p>第14回：症例検討2 過敏性腸症候群</p> <p>第15回：症例検討3 その他</p>			
<p>準備学習：各自がプレゼンテーションを行いたい内容については事前の申し出ることを伝えておく。</p>			
<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ストレスと病い」 監修；吾郷晋浩(関西看護出版) 2. 「よくわかる心療内科」 編集；桂 戴作、山岡昌之(金原出版) 			
<p>参考書・参考資料等：同上</p>			
<p>学生に対する評価：プレゼンテーション内容と質疑状況を重視する。</p>			

授業科目名： 障がい児・者心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) (D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：近喰ふじ子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>「障がいとは何か」を幅広く学び、障がい児・者の行動や考え方を理解することで援助の方法を探るとともに、臨床心理士及び公認心理師として障がい児・者の福祉分野で支援者として実践していく力を養成していく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各自に与えられた課題(テーマ)を事前に学習し、当日はそのプレゼンテーションをおこなう学習が中心となる。また、映画やビデオなどの視聴覚機器などを用いた講義も行う予定である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：障がいの概念</p> <p>第2回：障がいの歴史的発展(諸外国との比較)</p> <p>第3回：特別支援教育の動向と実際</p> <p>第4回：精神発達遅滞と発達障がいの相違とは？</p> <p>第5回：赤ちゃんは何を見ているのか？</p> <p>第6回：赤ちゃんの認識からコミュニケーションを考える</p> <p>第7回：赤ちゃんの運動から何が理解できるか？</p> <p>第8回：赤ちゃんのロコモーションからコミュニケーションを考える</p> <p>第9回：発達障がい児・者を考え・理解へ繋げるには？</p> <p>第10回：ASD概念</p> <p>第11回：注意・欠陥多動性障がいの危険性</p> <p>第12回：発達障がいと遺伝、家族関係</p> <p>第13回：発達障がいと併存症</p> <p>第14回：発達障がいの治療的関わりを考える</p> <p>第15回：療育には効果があるのか？ 臨床心理士および公認心理師の障がい児・者福祉分野での役割</p>			
<p>準備学習：各自に与えられた課題(テーマ)に対して事前にプレゼンテーションできるように調べておく。</p>			
<p>テキスト、参考書・参考資料等：「障害児の理解と支援」監修；近喰ふじ子、宮尾益知(駿河台出版)</p>			
<p>学生に対する評価：課題に対する取り組みとプレゼンテーションのおこない方を重視する。</p>			

授業科目名： グループ・アプローチ特論(E群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名： バーンズ亀山静子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>個人と集団のメンタルヘルスの理解とその向上のための技法を学ぶ。 ピア・サポートの技法を学び、プログラムの立案、実践のできる力をつける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>このコースでは、学校で起こっている問題、子どもたちの成長課題や日常的な悩み、さらに軽度発達障害などに触れ、その予防・援助方法として展開できるグループ・アプローチの計画実施するプロセスを演習を通じて行い、学校やコミュニティで仕事をするときに必要な考え方を身につける。授業内容にピア・トレーナー研修が組み込んであるので、受講後、トレーナー資格を日本ピア・サポート学会に申請すれば取得できる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもをめぐる問題・子どもの生活の中の問題 第2回：軽度発達障害と子どもの生活 第3回：学校でのグループ・アプローチの活用 第4回：ピア・サポート概論 第5回：ピア・サポートの技法①（自己理解・他者理解／動機づけ） 第6回：ピア・サポートの技法②（コミュニケーションスキル：アテンディング、ノンバーバル・スキル、コミュニケーション・ブロック） 第7回：ピア・サポートの技法③（コミュニケーションスキル：積極的傾聴のスキル、質問のスキル、表現のスキル） 第8回：ピア・サポートの技法④（問題解決スキル、対立解消スキル） 第9回：ピア・サポートの技法⑤（危機対応、スーパービジョン） 第10回：ピア・サポートの技法⑥（個人プランニング、活動の立案） 第11回：ピア・サポートの技法⑦（プログラム導入のためのデザイン） 第12回：ピア・サポートの技法⑧（評価、プログラム維持） 第13回：いろいろなグループ・アプローチ（SGE、SST他） 第14回：目的に沿ったグループ・アプローチの計画立案 第15回：まとめ</p>			
<p>準備学習：</p> <p>毎週、授業の最後に小レポート提出。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>配布物</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>未定</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業参加、プロジェクト・レポート</p>			

授業科目名：学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の 展開)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名： バーンズ亀山静子
授業の到達目標及びテーマ 学校臨床心理学の意義と役割を明らかにし、教育分野に関わる公認心理師の理論と実践について理解する。児童期・青年期の心の発達と危機を踏まえて、学校臨床心理学の実際として「不登校」「いじめ」「非行」などの課題と現状を分析し理解する。			
授業の概要 今日の学校臨床はいじめ、不登校、非行などの実践的な課題の対応に迫られている。これらの課題は、ただ単なる対処療法や単一理論では、解決が困難である。そこで、学校臨床心理学の意義と役割を明らかにし、教育分野に関わる公認心理師の理論と実践について理解する。具体的には、児童期・青年期の心の発達と危機を踏まえて、学校臨床心理学の実際として「不登校」「いじめ」「非行」などの課題と現状を分析し理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：学校臨床心理学とは 第3回：組織・体制 第4回：教育相談係り 第5回：不登校 第6回：いじめ 第7回：非行 第8回：アメリカ合衆国の体制 第9回：諸外国の体制 第10回：生徒指導との関連 第11回：他機関との連携 第12回：子どもの課題の実際 不登校など 第13回：子どもの課題の実際 いじめなど 第14回：子どもの課題の実際 非行・暴力行為など 第15回：まとめ・評価			
準備学習：発表資料を各自が準備し、発表を中心として学習していく。			
テキスト： 伊藤美奈子・相馬誠一編著 学校臨床心理学 サイエンス社			
参考書・参考資料等： 文部科学省の資料配布、他は適時指示			
学生に対する評価： プレゼン、出席、レポートの総合評価。プレゼン能力を身につけて欲しい。			

授業科目名：発達臨床心理学特論 (E群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：平野 真理
授業の到達目標及びテーマ 人生の各段階における関係性の発達と課題、および、その時期に寄り添う心理支援について学ぶ。			
授業の概要 E.H.Eriksonのライフサイクル論をもとに、人生の各段階における関係性の発達と、その時期の人間関係(社会)の中で生きるにあたり直面する課題を確認する。それらの課題へのつまずきを、個人の内面的・不変的な問題として見るよりも、関係性の中で生じるものとして、また、絶えず変化し続ける人生の一過程の中で生じているものとして捉える視点を学ぶ。また、各時期における関係性の課題へのつまずきに、寄り添う支援について、様々な現場の実践を取り上げながら学ぶ。本授業を通して臨床心理士として広い人間理解の視野を持てることを目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：周産期の発達への寄り添い：NICUの現場から 第3回：乳幼児期の発達への寄り添い：乳児院の現場から 第4回：学童期の発達への寄り添い：スクールカウンセリングの現場から 第5回：学童期の発達への寄り添い：関係の難しさを持つ子への支援の現場から 第6回：青年期の発達への寄り添い：引きこもり支援の現場から 第7回：成人期の発達への寄り添い：「障害」を持つ人々への支援の現場から 第8回：成人期の発達への寄り添い：女性センターの現場から 第9回：子育て期の発達への寄り添い：虐待予防支援の現場から 第10回：中年期の発達への寄り添い：復職支援の現場から 第11回：老年期の発達への寄り添い：認知症病棟の現場から 第12回：関係性の発達への寄り添い(1) 第13回：関係性の発達への寄り添い(2) 第14回：関係性の発達への寄り添い(3) 第15回：まとめ			
準備学習(予習・復習等)：毎回の授業前に該当部分を読んでくる。 発表担当を割り振り、自分の発表準備のために文献を読みプレゼン資料を作成する。			
テキスト： E.H.エリクソン(著)西平直・中島由恵(翻訳)「アイデンティティとライフサイクル」誠信書房			
参考書・参考資料等：授業の中で紹介する。			
学生に対する評価：課題への取り組み、授業参加、レポート内容によって、総合的に評価する。また、課題へのフィードバックを行う。			

授業科目名：産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：西村純一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業は、複雑化する産業・労働分野における「心の専門家」を目指す大学院生が、臨床心理士および公認心理師の実践に必要な、産業領域に対応していく上で基礎となる産業領域プロパーの知識と技術を身に着け、産業現場にかかわる態度を涵養することを目標としている。とくに、働く人間のキャリア形成と適応上の諸問題の実際とそれに対応するための理論や技術の理解、組織ストレスが強まる中、働く人間のメンタルヘルスの諸問題の実際とそれに対応するための理論や技術の理解をテーマとしている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>産業領域の実際の問題から入り、その問題を理解するための理論や技術について解説していく。前半は、キャリア支援の観点から、キャリア発達の諸問題を青年期、成人前期、成人中期、成人後期に分けて具体的な問題についてその対応を考える。後半は、メンタルヘルス支援の観点から、組織ストレスの諸問題を具体的に取り上げ、その対応について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：産業領域プロパーの理論と概念</p> <p>第2回：キャリアに関する理論と概念：ホルランドのヘキサモデル</p> <p>第3回：キャリアに関する理論と概念：スーパーのキャリアレインボー</p> <p>第4回：キャリアに関する理論と概念：シャインのキャリアアンカー</p> <p>第5回：キャリアに関する理論と概念：キャリア・カウンセリング、キャリア・デザイン</p> <p>第6回：青年期のキャリア発達の諸問題</p> <p>第7回：成人前期のキャリア発達の諸問題</p> <p>第8回：成人中期のキャリア発達の諸問題</p> <p>第9回：成人後期のキャリア発達の諸問題</p> <p>第10回：職業性ストレス・組織ストレスの理論と概念：医療モデルと心理モデル</p> <p>第11回：職業性ストレスの測定と研究</p> <p>第12回：メンタルヘルスへの対応：うつと自殺の予防</p> <p>第13回：メンタルヘルスへの対応：休職と職場復帰支援</p> <p>第14回：メンタルヘルスへの対応：職場のハラスメント</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>準備学習：事前に次の授業で取り上げる理論や技術についての予備的知識を共有しておきたい。ときには、理論や研究に関連する心理測定（心理検査）を実施し、分析しておくことを求める。</p>			
<p>テキスト：心の専門家養成講座⑧ 金井篤子（編）2016 産業心理臨床実践：個（人）と職場・組織を支援する ナカニシヤ出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：折に触れて紹介する</p>			
<p>学生に対する評価：平時の準備学習、学習理解度チェック、学習態度などから総合的に判定する。</p>			

授業科目名：生徒指導・教育相談 ・キャリア教育(心の健康教育に関する理論と実践)	単位数： 2単位	必修 (高専 (公民))	担当教員名： 相馬誠一・三浦正江 オムニバス
授業の到達目標及びテーマ 心の健康教育に関する理論と実践（生徒指導・教育相談・キャリア教育）における基本的な知識の習得および応用可能な基本的なスキルの修得を目的とする。			
授業の概要 心の健康教育、生徒指導、教育相談、キャリア教育の基本的な知識および基本的なスキルの習得を目的とする（オムニバス方式／全15回）。 （相馬誠一／1回～8回）基礎的な知識とスキルについて学習する。 （三浦正江／8回～15回）心の健康教育の基盤となる理論や実践例を学び、必要な知識とスキルを習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 自己紹介 レポート作成 第2回：生徒指導の意義と原理 第3回：教育課程と生徒指導 第4回：児童生徒の心理と児童生徒理解 第5回：学校における生徒指導体制 第6回：教育相談 第7回：生徒指導の進め方 第8回：学校と家庭・地域・関係機関との連携 第9回：心の健康教育（1）：心理的ストレスに関する理論 第10回：心の健康教育（1）：ストレスマネジメントの実践 第11回：心の健康教育（2）：ソーシャルスキルに関する理論 第12回：心の健康教育（2）：ソーシャルスキル・トレーニングの実践 第13回：心の健康教育（3）：アサーションに関する理論 第14回：心の健康教育（3）：アサーション・トレーニングの実践 第15回：ストレスチェックリストを用いた学校現場における協働の実際			
準備学習： テキストを事前に読み、問題意識を持って参加する。予習・発表資料作成1時間。復習1時間。（相馬） 授業開始前までに予習課題を指示する。また、各自で発表課題に関する準備を行う。（三浦）			
テキスト：文部科学省「生徒指導提要」教育図書。			
参考書・参考資料等： その都度資料提供し参考書を指示。準備教育を演習・実習形式で行う。			
学生に対する評価： 予習も含めて授業でのプレゼン30%、課題に対する受け答えなどの平常点40%、レポート提出30%等の総合評価。			

授業科目名：研究指導 特別研究	単位数：4単位	必修	担当教員名：5名
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理学に関して、研究の実践、指導を行い、またこれらについて論文指導を行う。</p> <p>(福井至)</p> <p>認知行動モデルの構築と、そのモデルに基づく認知行動療法の効果検証に関する研究を主に指導する。研究テーマの設定から、実験調査計画の策定と実施、データ分析、論文作成について順次指導していく。</p> <p>(井上俊哉)</p> <p>各自の関心に合致する心理学研究を数多く読み込むことから始める。そして、先行する研究で明らかになっていること、未解決な問題を整理した上で、オリジナルな研究を構想する。</p> <p>(相馬誠一)</p> <p>各自の研究テーマを吟味しながら、文献を踏まえて研究計画を作成する。その上で、各自の研究テーマを決定する。研究テーマに沿って、先行研究の成果を検討し、データの収集と分析を行い、修士論文の作成を進めていく。</p> <p>(三浦正江)</p> <p>修士論文の作成に関する指導を行う。具体的には、①修士論文のテーマ決定、②先行研究のレビューと研究計画の立案、③データの収集・分析、④論文執筆といった研究活動について、発表と討論を通して進めていく。</p> <p>(平野真理)</p> <p>先行研究からリサーチクエスチョンを導きだし、効果的な研究デザインを設計したうえでデータ収集および分析を遂行するための指導を行う。対象者の心のあり方を尊重し、適応やパーソナリティ特性について、多面的な視座を持つ研究を目指す。</p>			